

阪南大学 新4号館

にぎわいと交流が広がる、緑あふれるウェルネスな学びの拠点

建築物概要

- 所在地：松原市天美東5丁目
- 建築主：学校法人阪南大学
- 設計者：株式会社日建設計
一級建築士事務所
- 用途：大学
- 敷地面積：4,340㎡(仮想敷地設定)
- 建築面積：2,706㎡
- 延べ面積：9,890㎡
- 構造：鉄骨造、一部鉄筋コンクリート造
- 階数：地上5階
- CASBEE評価：Aランク/BEE値1.5
- 重点評価：CO₂削減3.9/
みどり・ヒートアイランド対策2.5/
建物の断熱性能5.0/エネルギー削減4.3/自然エネルギー直接利用4.0



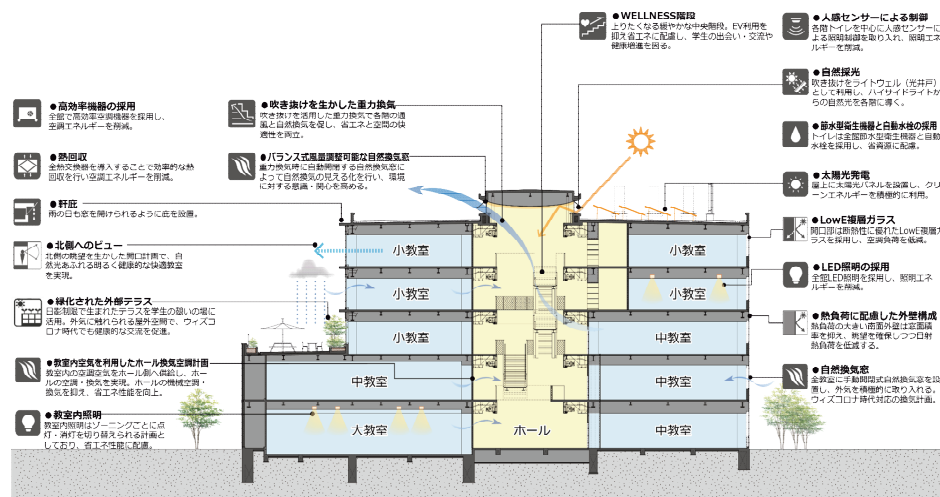
【立地、周辺環境】

計画地である阪南大学新キャンパスは、大和川沿いの緑豊かな地域に位置し、周囲は静かな住宅街と自然が調和した落ち着いた環境が広がっている。今回建物の計画地は、キャンパスの中でも特に学生で賑わう、キャンパス中庭に面した場所。

【総合的なコンセプト】

- ・阪南大学の学部再編とキャンパス統合による学生数増加に対応するための、学内最大規模の新教室棟建て替え計画。
- ・授業の合間やランチタイムに学生が集う中庭に面して、段状にセットバックする緑豊かなテラス空間と緑に囲まれた緩やかな屋外階段を設けることで、中庭から連続的に学生のにぎわいが展開し、緑と風を感じられるウェルネスな学生の居場所づくりに配慮した。
- ・建物中央に5層吹き抜け空間を設け、その周囲にコンスペースを計画することで、動線と交流の中心を創出した。吹き抜けを利用した重力換気や自然採光を導入することで、学生が集まる中心的な居場所が省エネルギーの工夫を取り入れた快適な空間となる計画とした。

建物断面構成図



環境配慮事項とねらい

●キャンパス中庭から学生を引き込む、段状に連なる緑あふれる学生の居場所

中庭のにぎわいを引き込む、ウェルネスな学生の居場所

既存キャンパス中庭に面するように段々状のテラス空間を計画する。テラス形状は北側日影制限をクリアするために生まれた合理的な形状であり、緩やかな屋外階段によって、中庭から一体的につながる生徒のにぎわい空間の創出に寄与している。

テラスには豊かな植栽を配置し、ヒートアイランド抑制に配慮した計画としており、屋外ファニチャーを設けることで、緑あふれる空間の中で積極的なコミュニケーションが生まれる計画とした。

テラスを構成する大きな庇の下が学生の居場所となり、居心地の良い半屋外コミュニケーション空間になっている。

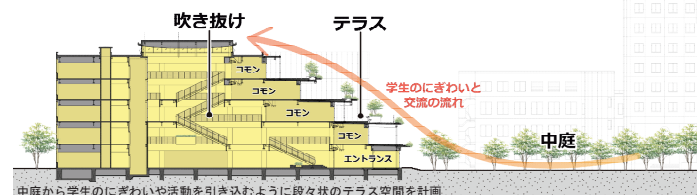
庇や緑化、登りたくなる階段などを組み合わせることで、エネルギー消費を抑えて、生徒がウェルネスに交流できる空間を創出した。



緩やかにつながる屋外階段により、のびやかな緑豊かなテラス空間を演出する



テラスの庇下が学生の憩いの空間になる



●交流を育む動線と環境配慮を融合した空間デザイン

省エネルギーの工夫が詰まった吹き抜け空間が学生のアクティビティの中心となる

建物内部の中心は、学生のメイン動線となる中央の階段状の吹き抜け空間である。階段周囲には学生のたまり空間となるスペースを設け、エレベーター使用を抑制しながら、授業の合間に学生たちが行き交い、出会いや交流が生まれる動線計画としている。

各階、西面のテラスに面してオープンコンスペースを配置し、テラスと連続した居心地の良い空間とすることで、室内外に学生の活動が広がっていき、建物全体に学生の賑わいが広がる計画とした。

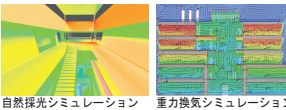
学生が集う中央の吹き抜け空間が、省エネルギーの工夫を取り入れた快適な空間となるよう、設計段階で環境シミュレーションを活用した。吹き抜け上部を立ち上げ、重力換気でハイサイドライトから校舎内の空気を排出し、自然換気を促進して空調・換気負荷を低減。曲面仕上の天井はハイサイドライトからの光を柔らかく取り込み、照明エネルギー削減に貢献している。



環境配慮と学生の活気が融合する吹き抜け空間



自然採光シミュレーション



●堅実で身近な省エネ・省資源手法の導入

身近で一般的な省エネルギー・省資源手法を積極的に取り入れた、使いやすく環境にやさしい学び舎のデザイン。新校舎では、身近で一般的な省エネ・省資源の工夫を随所に取り入れている。これにより、学生たちが普段の生活の中で意識せずとも省エネや環境配慮に貢献できるような学び舎をデザインした。



全熱交換機・高効率換気・ゾーンごとのLED照明制御を取り入れた大教室



省エネ・省資源手法を取り入れた大教室

